

附則

本令ハ昭和十八年法律第二十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ引受ニ係ル農業保險ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

〔參照〕

昭和十三年十二月二十日勅令第七百八十二號農業保險施行令抄録

險法施行令抄録

第一條 農業保險法第一條第三項ノ共濟ノ目的タル農作物及小作料ハ左ニ掲グルモノトス

(左記略ス)

第五條第二項

農林大臣特ニ必要アリト認ムルトキハ純保險料率及附加保險料率ニ關スル定款ノ規定ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第六條 農業保險法第五十六條ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔スベキ金額ハ農業保險組合ノ組合員ガ第一條ノ農作物ノ收穫上ノ損失ニ關スル共濟責任ヲ保險ニ付スル爲支拂フベキ附加保險料ノ限度トシ別表ニ依リ算出シタル金額ヲ基準トシテ農林大臣之ヲ定ム

第七條 前條ノ國庫負擔金ハ農業保險組合ノ組合員ノ爲ニ組合ニ之ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依リ組合ニ交付スベキ國庫負擔金ノ一部ハ組合ニ對シ之ヲ交付スルニ代ヘ夫々農業保險組合聯合會及政府ノ受クベキ附加再保險料ニ充ツル爲農林大臣ノ定ムル額ニ依リ聯合會及農業再保險特別會計ニ之ヲ交付シ又ハ繰入ルコトヲ得

第十條 政府ノ行フ再保險ノ再保險金額ハ第一條各

號ノ共濟ノ目的ノ種類別ニ農業保險組合聯合會ノ總再保險金額ヨリ總再保險金額ニ通常純再保險料率ヲ乘ジタル額ヲ控除シタル殘額トス

前項ノ通常純再保險料率ハ農林大臣之ヲ定ム

第十二條 政府ハ第一條各號ノ共濟ノ目的ノ種類別ニ農業保險組合聯合會ノ農業保險組合ニ對スル支拂再保險金ノ總額ガ聯合會ノ總再保險金額ニ異常災害決定ノ基礎トナリタル標準被害率ヲ乘ジタル額ヲ超過シタル場合ニ限り聯合會ニ對シ再保險金ヲ支拂フモノトス

前項ノ場合ニ於ケル政府ノ支拂再保險金ノ額ハ聯合會ノ支拂再保險金ノ總額ヨリ總再保險金額ニ第十條第二項ノ通常純再保險料率ヲ乘ジタル額ヲ控除シタル殘額トス

第一項ノ標準被害率ハ農林大臣之ヲ定ム

陸軍の第一補充兵を海軍の第一補充兵と爲すの件公布

陸軍の第一補充兵を海軍の第一補充兵と爲すの件は、昭和十八年五月十五日付官報を以て左の如く公布せられた。

陸軍ノ第一補充兵ヲ海軍ノ第一補充兵ト爲スノ件

(昭和十八年五月十四日勅令第四百二十一號)

第一條 昭和十七年以前ノ徵集ニ係ル陸軍ノ第一補充兵ニシテ未ダ召集ヲ受ケザルモノハ必要ニ應ジ之ヲ海軍ノ第一補充兵ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ海軍ノ第一補充兵ト爲スベキ者ノ員數及兵種ニ付テハ陸軍大臣ト海軍大臣トノ協議ニ

基キ陸軍大臣之ヲ定ム

第二條 前條第一項ノ規定ニ依ル處分ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ本籍地所管ノ聯隊區司令官之ヲ行フ前項ノ處分ハ證書ヲ以テ之ヲ本人ニ通達ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

俘虜勞務規則等の公布

俘虜勞務規則及俘虜派遣規則中改正の件は昭和十八年五月二十日付官報を以て左の如く公布せられた。尙之に伴ひ俘虜勞務規則廢止の件及派遣俘虜取扱規則中改正の件も同日付官報を以て達せられた。

俘虜勞務規則

第一條 俘虜(將校タル俘虜ヲ除ク)ハ本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ勞務ニ服セシムルコトヲ得但シ俘虜派遣規則ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ勞務ハ俘虜ノ健康、技能、本國ニ於ケル地位等ニ應ジ之ヲ定ムルモノトス

將校タル俘虜ハ其ノ發意ニ基キ之ヲ勞務ニ服セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ノ規定ヲ適用スルモノトス但シ賃金ハ之ヲ支給セズ

第二條 俘虜收容所長ハ俘虜收容所内ニ於テ俘虜ヲ勞務ニ服セシムルコトヲ得

第三條 俘虜收容所ヲ管理スル軍司令官又ハ衛戍司令官(以下單ニ俘虜收容所管理長官ト稱ス)ハ俘虜收容所以外ノ陸軍部隊ニ於テ俘虜ヲ勞務ニ服セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ勞務ニ服セシムル俘虜ノ人員、勞務ノ場所、種類、時間、期間等ニ關シ豫メ陸

軍大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ帝國外(内地、朝鮮及臺灣以外ノ地ヲ謂フ以下同ジ)ニ在リテハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルニ及バズ

帝國外ニ於テ俘虜收容所管理長官俘虜收容所以外ノ陸軍部隊ニ於テ俘虜ノ勞務ニ服セシメタルトキハ速ニ勞務ニ服セシメタル俘虜ノ人員、勞務ノ場所、種類、時間、期間等ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

第四條 前二條ノ規定ニ依リ俘虜ヲ勞務ニ服セシメタル場合ノ賃金ハ俘虜收容所ニ於テ之ヲ支拂フモノトス

第五條 陸軍部外(帝國外ヲ除ク)ニ於テ俘虜ノ勞務ヲ受ケントスル者ハ別紙様式ノ俘虜勞務許可願ヲ陸軍大臣ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ俘虜勞務許可願又ハ陸軍大臣ノ許可シタル俘虜勞務許可願ノ記載事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第六條 陸軍大臣前條ノ願ヲ許可シタルトキハ勞務ニ服セシムル俘虜ノ人員、勞務ノ場所、種類、時間、賃金、期間等ヲ定メ之ヲ俘虜收容所管理長官ニ達ス

第七條 俘虜收容所管理長官前條ノ達ヲ承ケタルトキハ之ニ基キ所要ノ取締法ヲ定メ俘虜ヲ勞務ニ服セシムルモノトス

第八條 帝國外ノ陸軍部外ニ於テ俘虜ヲ勞務ヲ受ケントスル者ハ別紙様式ノ俘虜勞務許可願ヲ俘虜收容所管理長官ニ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ俘虜勞務許可願又ハ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル俘虜勞務許可願ノ記載事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第九條 俘虜收容所管理長官前條ノ願ヲ許可シタルトキハ所要ノ取締法ヲ定メ俘虜ヲ勞務ニ服セシムルモノトス

ノトス

第十條 俘虜收容所管理長官前條ノ規定ニ依リ俘虜ヲ陸軍部外ノ勞務ニ服セシメタルトキハ速ニ勞務ニ服セシメタル俘虜ノ人員、勞務ノ場所、種類、時間、賃金、期間等ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

第十一條 公共團體又ハ法人ノ俘虜勞務許可願ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第十二條 陸軍部外ニ於ケル俘虜ノ勞務ヲ許可セラレタル者(以下單ニ俘虜使用者ト稱ス)ハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ俘虜ノ勞務服務中取締ノ爲所要ノ警戒員ヲ差出シ俘虜收容所長ノ指揮ヲ承ケシムベシ

第十三條 俘虜使用者ハ俘虜收容所長ノ指示ヲ受ケテ俘虜ノ勞務指導ニ任ズベシ

第十四條 俘虜使用者ハ毎月俘虜收容所長ノ定ムル期日迄ニ所定ノ賃金ヲ俘虜收容所長ニ納付スベシ

第十五條 俘虜使用者ハ俘虜收容所長ニ對シ俘虜ノ勞務獎勵又ハ艱苦軽減ノ用ニ供スル爲金錢物品ノ寄贈ヲ申出ヅルコトヲ得

第十六條 俘虜使用者ハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ毎月末ニ於テ俘虜ノ勞務狀況ヲ俘虜收容所長ニ報告スベシ

第十七條 俘虜使用者本令ノ諸規定、第五條若ハ第八條ノ規定ニ依リ陸軍大臣若ハ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル俘虜勞務許可願ノ記載事項又ハ第七條若

ハ第九條ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ定メタル取締法ニ違反シタルトキハ陸軍大臣(帝國外ニ在リテハ俘虜收容所管理長官以下同ジ)ハ俘虜勞務ノ許可ヲ取消スコトヲ得

前項ノ外陸軍大臣必要ト認ムルトキハ俘虜勞務ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ俘虜使用者ハ許可ノ取消ニ因リテ生ジタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 俘虜使用者ハ俘虜ニ對シ本令ニ規定ナキ事項ヲ行フコトヲ得ズ但シ特ニ陸軍大臣ノ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 第十四條ノ規定ニ依リ俘虜使用者ノ納付シタル賃金ハ俘虜收容所出納官吏之ヲ保管スベシ但シ其ノ一部ヲ俘虜給養費ノ補填トシテ國庫ニ納入スルモノトス其ノ納入額ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條 前條ノ規定ニ依リ俘虜收容所出納官吏ノ保管スル金錢ハ第四條ノ賃金ト共ニ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ本人ニ支給スルモノトス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
從前ノ規定ニ依リ陸軍部外ニ於テ俘虜ノ勞務ヲ受ケタル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日(帝國外ニ在リテハ六十日)以內ニ第五條又ハ第八條ノ規定ニ依リ俘虜勞務許可願ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

別紙
俘虜勞務許可願
年 月 日 住所 職業
陸軍大臣(軍司令官又ハ) 衛戍司令官(殿)
氏 名
生 年 月 日

左記ニ依リ俘虜勞務規則ニ依ル俘虜ノ勞務ヲ受ケ度候間御許可相成度申請候也

左記

- 一 俘虜ノ人員
- 一 俘虜ノ使用場所
- 一 俘虜ノ勞務ノ種類
- 一 俘虜ノ收容設備
- 一 俘虜ノ警戒員
- 一 俘虜ノ勞務指導
- 一 俘虜ノ賃金
- 一 俘虜ノ勞務服務時間
- 一 俘虜ノ使用期間

備考

- 一 帝國外ニ在リテハ俘虜ノ收容設備ヲ記入スルヲ要セズ
- 二 俘虜ノ收容設備ハ俘虜使用者ニ於テ既設ノ建築物ヲ利用シ 又ハ新設スルヲ本則トシ右願書ニハ具體的計畫ヲ記載シ許可アリタル後速ニ之ヲ完成スルモノトス
- 三 俘虜ノ賃金ハ概ネ一圓トス 但シ特種ノ技術ニ從事セシムルモノニハ本人ノ技術、作業ノ種類、從業時間、從業場所等ヲ斟酌シ更ニ三十五錢以內ヲ増加スルモノトス

俘虜派遣規則中改正ノ件

(昭和十八年五月二十日 陸軍密令第二十三號)

第二條 陸軍部外(帝國外(内地、朝鮮及臺灣以外)ノ地ヲ謂フ以下同ジ)ヲ除クニ於テ俘虜ノ派遣ヲ受ケントスル者ハ別紙様式ノ俘虜派遣許可願ヲ陸軍大臣ニ

提出シ其ノ許可ヲ受ケベシ俘虜派遣許可願又ハ陸軍大臣ノ許可シタル俘虜派遣許可願ノ記載事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ、前項俘虜派遣許可願ノ提出順序ハ別ニ之ヲ告示ス

第二條ノ二 陸軍大臣前條ノ願ヲ許可シタルトキハ派遣俘虜ノ人員、居住、取締、勞務(勞務ノ場所、種類、時間、期間等)、給與(賃金、酒保ヲ含ム)、醫療等ニ關スル事項ヲ定メ之ヲ俘虜收容所ノ管理スル軍司令官又ハ衛戍司令官(以下單ニ俘虜收容所管理長官ト稱ス)ニ達ス

第二條ノ三 俘虜收容所管理長官前條ノ達ヲ承ケタルトキハ之ニ基キ所要ノ取締法ヲ定メ俘虜ヲ派遣スルモノトス

第二條ノ四 帝國外ノ陸軍部外ニ於テ俘虜ノ派遣ヲ受ケントスル者ハ別紙様式ノ俘虜派遣許可願ヲ俘虜收容所管理長官ニ提出シ其ノ許可ヲ受ケベシ俘虜派遣許可願又ハ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル俘虜派遣許可願ノ記載事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第二條ノ五 俘虜收容所管理長官前條ノ願ヲ許可シタルトキ所要ノ取締法ヲ定メ俘虜ヲ派遣スルモノトス

第二條ノ六 俘虜收容所管理長官前條ノ規定ニ依リ俘虜ヲ派遣シタルトキハ速ニ派遣俘虜ノ人員、居住、取締、勞務(勞務ノ場所、種類、時間、期間等)、給與(賃金、酒保ヲ含ム)、醫療等ニ關スル事項ヲ陸軍大臣ニ報告スベシ

第三條中「願出」ヲ「俘虜派遣許可願」ニ改ム

第四條第一項及第五條中「本令及第二條ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル計畫」ヲ「本令ノ諸規

定 第二條又ハ第二條ノ四ノ規定ニ依リ陸軍大臣又ハ俘虜收容記載事項及第二條ノ三又ハ第二條ノ五ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ定メタル取締法」ニ改ム

第七條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ警戒員ハ派遣俘虜概ネ三十名ニ付一名トス

第八條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ勞務指導ハ前條ノ警戒員ヲ以テ之ニ當ラシムルコトヲ得

第九條第一項中「其ノ他ノ給與ハ」ノ下ニ「其ノ全部又ハ一部」ヲ加ヘ「之ヲ」及同條第二項ヲ削ル

第十條 派遣俘虜使用者ハ毎月俘虜收容所長ノ定ムル期日迄ニ所定ノ賃金ヲ俘虜收容所長ニ納付スベシ

第十條ノ二 派遣俘虜使用者ハ俘虜收容所長ノ定ムル所ニ依リ酒保ヲ設置スベシ

第十一條ノ二 派遣俘虜使用者ハ俘虜收容所長ニ對シ派遣俘虜ノ勞務獎勵又ハ艱苦輕減ノ用ニ供スル爲金錢物品ノ寄贈ヲ申出ヅルコトヲ得

俘虜收容所長取締上差支ナシト認ムルトキハ前項ノ申出ヲ許可シ所要ニ應ジ之ヲ派遣俘虜ニ支給スルモノトス

第十五條第一項中「本令又ハ第二條ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル計畫」ヲ「本令ノ諸規定

第二條若ハ第二條ノ四ノ規定ニ依リ陸軍大臣若ハ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル俘虜派遣許可願ノ記載事項又ハ第二條ノ三若ハ第二條ノ五ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ定メタル取締法」ニ「俘虜收容所管理

長官」ヲ「陸軍大臣(帝國外ニ在リテハ俘虜收容所管理長官以下同ジ)ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ

改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ外陸軍大臣必要ト認ムルトキハ俘虜派遣ノ許
可ヲ取消スコトヲ得

第十六條中「派遣俘虜使用者ハ」ノ下ニ「派遣俘虜ニ對
シテ、行フコトヲ得ズ」ノ下ニ「但シ特ニ陸軍大臣ノ
許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ」ヲ加フ

第十七條 削除

第十八條中「官廳」ヲ「俘虜收容所以外ノ陸軍部隊」ニ改

別紙 (用紙適宜)

俘虜派遣許可願

年月日 住所 職業

氏名 生年月日

陸軍大臣(軍司令官又ハ)殿
(衛戍司令官)

左記ニ依リ俘虜派遣規則ニ依ル俘虜ノ派遣ヲ受ケ度
候間御許可相成度申請候也

左記

- 一 派遣俘虜ノ人員
- 一 派遣俘虜ノ使用場所
- 一 派遣俘虜ノ勞務ノ種類
- 一 派遣俘虜ノ收容設備
- 一 派遣俘虜ノ警戒員
- 一 派遣俘虜ノ勞務指導
- 一 派遣俘虜ノ給與
- (一) 糧食
- (一) 寢具
- (一) 煖室用薪炭
- (一) 日用品

(一) 旅費

(一) 其ノ他

一 派遣俘虜ノ賃金

一 派遣俘虜ノ酒保

一 派遣俘虜ノ醫療

一 派遣俘虜ノ勞務服務時間

一 派遣俘虜ノ使用期間

備考

一 派遣俘虜ノ收容設備ハ派遣俘虜使用者ニ於
テ既設ノ建築物ヲ利用シ又ハ新設スルヲ本則
トシ右願書ニハ具體的計畫ヲ記載シ許可アリ
タル後速ニ之ヲ完成スルモノトス

二 派遣俘虜ノ賃金ハ俘虜給與規則第十三條ニ
定ムル金額(二十五錢以内ノ増給額ヲ含ム)ヲ
基準トス但シ派遣俘虜ノ給與中派遣俘虜使用
者ニ於テ擔當シ得ザルモノアルトキハ左ノ區
分ニ依リ之ヲ右基準金額ニ附加シ賃金ヲ定ム
ルモノトス

(一) 糧食

主食(米、麥、麵麩等)

副食

(二) 寢具

(三) 煖室用薪炭

(四) 日用品

其ノ他ノ給與ヲ擔當スルトキハ適宜賃金ヲ減
額スルコトヲ得但シ旅費ニ付テハ此ノ限ニ在
ラズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ規定ニ依リ俘虜ノ派遣ヲ受ケアル者ハ本令施行
ノ日ヨリ三十日(帝國外ニ在リテハ六十日)以内ニ第二
條又ハ第二條ノ四ノ規定ニ依リ俘虜派遣許可願ヲ陸軍
大臣ニ提出スベシ

〔參照〕

昭和十七年十月二日 陸軍省令第五十八號 俘虜派遣
規則抄錄

第二條 工場、事業場等ニ於テ俘虜ノ派遣ヲ受ケン
トスルトキハ第六條乃至第十一條ノ規定ノ實施ニ
關スル計畫書ヲ定メ之ヲ別紙様式ノ願書ニ添附シ
當該俘虜收容所ヲ管理スル軍司令官又ハ衛戍司令
官(以下單ニ俘虜收容所管理長官ト稱ス)ニ提出シ
其ノ許可ヲ受ケベシ計畫書ヲ變更セントスルトキ
亦同ジ

第三條 公共團體又ハ法人ノ願出ニ在リテハ其ノ代
表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第四條 第一項

俘虜ノ派遣ヲ許可セラレタル者(以下單ニ派遣俘
虜使用者ト稱ス)ハ本令及第二條ノ規定ニ依リ俘
虜收容所管理長官ノ許可シタル計畫ノ實施ニ關シ
俘虜ヲ差出シタル俘虜收容所長(以下單ニ俘虜收
容所長ト稱ス)ノ指示ヲ受クベシ

第七條 派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ取締ノ爲所要
ノ警戒員ヲ差出シ俘虜ヲ差出シタル俘虜收容所
(以下單ニ俘虜收容所ト稱ス)ヨリ派遣セラレタル
職員ノ指揮ヲ承ケシムベシ

第八條 派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ勞務指導ニ任
ズベシ

第九條 派遣俘虜ノ糧食、寢具、煖室用薪炭、日用

品、旅費(俘虜ノ派遣及復歸ニ要スル旅費ヲ含ム) 其ノ他ノ給與ハ派遣俘虜使用者之ヲ擔當シ概テ俘虜收容所ニ進ジタル給與ヲ爲スベシ但シ將校タル

派遣俘虜及敵國軍衛生人員ノ俸給並ニ俘虜著裝被服使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキ之ニ貸與スベキ被服ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ外派遣俘虜使用者ハ派遣俘虜ノ勞務ニ要スル被服ヲ整備スベシ

第十條 派遣俘虜使用者ハ俘虜給與規則第十三條ニ定ムル金額(三十五錢以內ノ増給額ヲ含ム)ヲ基準トスル賃金ヲ俘虜收容所長ニ納付ベシ

第十五條第一項

派遣俘虜使用者本令又ハ第二條ノ規定ニ依リ俘虜收容所管理長官ノ許可シタル計畫ニ違反シタルトキハ俘虜收容所管理長官ハ俘虜派遣ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十六條 派遣俘虜使用者ハ本令ニ規定ナキ事項ヲ行フコトヲ得ズ

第十七條 本令ニ依リ俘虜收容所管理長官ト派遣俘虜使用者間ニ授受スベキ書類ハ俘虜收容所長ヲ經由スベシ

第十八條 前諸條ノ規定ハ官廳ハ俘虜ヲ派遣スル場合ニ之ヲ準用ス

俘虜勞役規則廢止ノ件

(昭和十八年五月二十日 陸運第三十九號)

俘虜勞役規則ハ之ヲ廢止ス

派遣俘虜取扱規則中改正ノ件

(昭和十八年五月二十日 陸運第四十一號)

第一條中「俘虜勞役規則」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ行フ

俘虜勞務規則第一條 第十九條及第二十條ノ規定ハ之ヲ派遣俘虜ニ適用ス

第二條 削除

第六條第四號中「ヲ經テ俘虜收容所管理長官」ヲ削リ同條第五號中「其ノ他ノ日用品等」ノ下ニ「派遣俘虜使用者ノ設置シタル酒保以外ヨリ」ヲ加フ

第八條 俘虜收容所管理長官ハ隨時派遣俘虜ノ交替ヲ命ズルコトヲ得

昭和十八年度國民動員實施計畫の閣議決定

昭和十八年度の國民動員實施計畫については昭和十八年五月三日閣議決定を見、同日企畫院總裁談の形式を以て左の如く發表せられた。

昭和十八年度國民動員實施計畫に就て (昭和十八年五月三日 企畫院總裁談)

昭和十八年度國民動員に就ては、大東亞戰爭の現段階に於て之に對應すべき生産増強が生産諸要素中特に國民勞務の量及質の確保並に其の生産性の昂揚に俟つ處至大なるに鑑み、政府は曩に生産増強勤勞緊急對策要綱を決定すると共に昭和十八年度物資動員計畫其の他各種總動員計畫に照應し、昭和十八年度國民動員實

施計畫の設定を急ぎつつあつたのであるが、本日閣議に於て之が決定を見るに至つた次第である。

本計畫は戰時生産の増強に必要な要員を充足すると共に勤勞總力の最高度發揮を圖るを目的として編成したのであるが、計畫の對象たる業務及要員の範圍等に付ては概ね前年度と大差なきにも拘らず、之が要員は國民動員實施計畫設定以來當つてなき尨大なる數に上り、之が迅速且適確なる充足は實に異常の努力を必要とするのみならず、之が成否は戰力の増強に至大なる影響あるを思ひ、特に本計畫に於ては左記方針の下に強力且徹底的なる措置を講ずることとしたのである。

一、軍需の充足、五大重點物資其の他緊要物資の生産並に輸送の増強に重點を置き之が要員の確保を圖ること。

二、勞務給源の擴充並に之が適時的確なる配置を期する爲、書記的又は輕易なる業務等女子を以て代替するを適當とするものに付男子の就業を禁止又は制限し、不急と認めらるる學校等に所謂各種學校等を整理し、國民徵用實施の強化を圖り、國民勤勞報國隊を整備擴充する等強力なる動員を行ふこと。

三、産業整備は國民動員上の必要を考慮し迅速且強力に遂行すると共に休廢止企業の従事者に付ては其の生活保障鍊成等に特別の考慮を拂ひ、其の技能及經驗を活用し得る如く國家に於て計畫的に重點企業への轉換を圖ること。

四、農業勞務に付ては戰時食糧生産の重要性に鑑み鑛工業勞務との調整を考慮し之が確保を圖ること。

五、事務職員及公務要員は極力之が必要を抑制し原則として減耗補充の限度に止め概ね女子を以て之に充